



# 柳井金魚ちようちんの歴史

②

## 柳井市社会教育指導員

## 松島幸夫

【②金魚ねぶたの登場】江戸時代の後半期に、灯火玩具である「金魚ねぶた」が津軽藩で誕生した。「津軽錦」は、尾ひれが大きく、背びれがなく、程よい丸みのある体形をしており、その特徴を灯火玩具の「金魚ねぶた」に移している。津軽で品種改良をした「津軽錦」への愛情が入り混じっており、郷土の誇りが感じられる。

「金魚ねぶた」が誕生する経緯には諸説があり、そのいくつかを紹介しよう。

金魚を弘前城下に移入して養殖と品種改良

「金魚ねぶた」が誕生する経緯には諸説があり、そのいくつかを紹介しよう。



と取り組んだ頃、金魚を初めて覗き見た弘前庶民は気味悪がったという。尾ひれは大きく裂けて、背びれがなく、毒々しい赤色をしている。噂は噂を呼び、たちまちのうちに不審情報は広まった。心配した武士は、金魚の玩具を作つて子供たちに配布した。案の定、子供たちは手にして喜び、遊びに使つた。金魚に対する不安感は失せていったといふ。

また別の説として、藩主の寵愛していた魚が死んでしまい、藩主が塞ぎ込んでしまった。元氣を取り戻してほし

いと「金魚ねぶた」を家臣が作つて慰めたことが、誕生のきっかけであつたとも言われている。さらに異説として、

葬儀屋が提灯などの葬式用具を作る傍ら、副業として「金魚ねぶた」を作り、売り歩いて収入の一部にしたという。他に、金魚には関係しない疱瘡除けの御守であつたとの説もある。幕末に西洋から種痘が導入される以前には、治療法のなかつた疱瘡

は実にやつかいな感染症であつた。高熱を発し、身体は赤くむくみ、死に至ることもあつた。神仏の加護を願ひ、疱瘡魔の身代わりとして「金魚ねぶた」が誕生したとの推測である。津軽の「金魚ねぶた」には目の周囲に斑点を描いているが、疱瘡も同様の発疹が現れる。

と思つてくれたら、この企画は成功」とまためている。

【新しい特産品を製造】若い人を対象とした新しい特産品「じねんじょ」を「ピオカ」を開発する企画。じねんじょと片栗粉を使つての夕ピオカ作りに挑戦。感想として、「新しい特産

市外への進学後柳井に戻つてきたい人は44%。柳井で働きたい人を増やすための企画として、柳井で仕事をする人や就職する人に補助金(5〜10万円程度)を給付する。

「柳井での就職に興味を持ち、労働人口が増加し、柳井の経済が

の発疹が現れる。

津軽の「金魚ねぶた」誕生の時期は、正確には把握しがたいが、江戸時代後期であろうと推測されている。明治時代の話として、夏にねぶたの山車を引き回す時、引き回しを待つている人々は、波を描いた台を家門に置き、台の上にとらいを乗せ、たらいの上に「金魚ねぶた」を掲げて水に映つた金魚の姿を愛でたと伝えられている。金魚と水は切っても切れない関係にあり、領ける。また、高度成長以前までは「金魚ねぶた」を持つ子供たちが、引き回される山車ねぶたの後ろをついて歩いてい

た。

審査会には、柳井広域圏の各団体に所属する小学1年から一般までの33人が参加。審査は、立ち会い前後の作法や正面打ち、切り返し実技のほか、級別に剣道基本稽古法の指定技の形を披露するもので、

合格者は次(丸カッコ内)と学年、敬称略

- ◎6級 木村生小1 渡邊小1 山本一貴
- ◎1 田村沢仁(佐)
- ◎4級 寺田生小3 滝沢小3 中川直哉

たと言われる。

【写真は青森県弘前の「金魚ねぶた」】

今年、小中学校に入学する新1年生に役立ててほしいと、山口県トラック協会柳井支部の山縣正支部長は10日、柳井市役所を訪れ、西元良治教育長に小学生用の黄色い雨傘と中学生用のサイクルセーフティライト(自転車サドル後部取り付けの点滅ライト)を寄贈した。

柳井支部では、トラック運送業として、道路を使つた仕事をして

新入生への交通安全

今年、小中学校に入学する新1年生に役立ててほしいと、山口県トラック協会柳井支部の山縣正支部長は10日、柳井市役所を訪れ、西元良治教育長に小学生用の黄色い雨傘と中学生用のサイクルセーフティライト(自転車サドル後部取り付けの点滅ライト)を寄贈した。

柳井支部では、トラック運送業として、道路を使つた仕事をして

た。

審査会には、柳井広域圏の各団体に所属する小学1年から一般までの33人が参加。審査は、立ち会い前後の作法や正面打ち、切り返し実技のほか、級別に剣道基本稽古法の指定技の形を披露するもので、

今年で20回目。新中学校の入学生(2日